

第 12 章

真実を隠すための陰謀論

12.1 マイケルソン-モーリーの実験などにおいて科学的議論がなぜ無視されるのか？

いくつか理由が考えられます。

- (1) その方が楽だ。
- (2) 難問を解決したことにしてとにかく先へ行きたい。
- (3) そうした方が自分たちにとって都合が良い。

それが、「科学的法則は社会的に決定される」という意味になります。ハリウッド SF 映画の「猿の惑星」の世界です。

アインシュタイン理論や量子力学理論の完成の是非はソルベー会議で決定されました。そこに参加する科学者の間のコンセンサスだけで決まりました。決して実験的真実だけで決まったわけではありません。

特に 20 世紀に、社会哲学者のジャック＝マリー＝エミール・ラ

カン博士*¹は、科学者に向かってこのことを最初に指摘しました。しかし彼は科学者たちからの猛反発を受けました。誹謗中傷の嵐になりました。しかしながら、歴史的事実を調べれば調べるほど、実はラカン博士が正しかったことがわかります。

科学および科学の法則は、科学者コミュニティの社会的コンセンサスで決まります。そのコンセンサスをパラダイムと呼んでいます。これは、実験物理学者のトーマス・サミュエル・クーン博士*²が「科学革命の構造」*³という本で最初に提案した概念です。しかしながら、これは彼の科学に対する知識不足が招いた誤解にすぎません。

どの実験結果を正しいと認定するかが、科学学会における多数決、あるいは有名科学雑誌への投稿、あるいは有力科学者の認知、そういうもので決まった結果、実際にはその事実と矛盾する、あるいはそれを否定する、他のたくさんの実験結果が無視されることになるわけです。ひとたびその実験結果が正しいことになるとう二度とそれを覆すことが難しくなります。

たとえば、その実験結果がノーベル賞をとってしまった場合はどうでしょうか？ その後その実験結果を否定する実験結果が得られたとしても、その間違った事実をもとに戻せるかどうかは非常に難しい問題なのです。

相対性理論の場合、マイケルソン-モーリーの実験を正しいと当時の欧州物理学会が認知しました。その結果、アインシュタインが正しいことになりました。

*¹ <https://ja.wikipedia.org/wiki/ジャック・ラカン>.

*² <https://ja.wikipedia.org/wiki/トーマス・クーン>.

*³ トーマス・クーン著/中山茂訳「科学革命の構造」(みすず書房、1971年).

しかしながら、その後30年以上他の人達がマイケルソン-モーリーの実験を研究し、それは正しくないことが分かったのです。しかしそれを指摘すれば、その人が排除されました。これが科学の法則が社会的コンセンサスで作られたことの典型例なのです。

なぜなら、エーテルが存在すると、その時代の投資家や起業家たちが困ったのです。当時は、彼らは電力事業での金儲けしようと計画しました。ニコラ・テスラの登場でそれが危機に陥ったのです。世界中を電線事業や水力発電で金儲けしようという彼らの前で、ニコラ・テスラの無線送電は脅威でした。彼らの目論見がおしゃかになるからです。

だから、ソルベー会議やノーベル賞をサポートしているのは起業家たちです。だから、自分たちの事業計画を後押ししてくれる科学者を全面に押し出したいのです。あとは邪魔者になります。場合によっては消してきました。

実は、この世界はどんな理論であってもそれなりに機能するという、ある種の許容性があるのです。たとえば、他の動物には彼らなりの宇宙論があってもよいのです。芋虫にも芋虫なりの宇宙論や世界認識があるはずですが、それは我々のものとは全く異なりますが、それはそれで機能するのです。

人間の場合も同様です。日本人の宇宙論で宇宙をそれなりに説明可能です。西洋人のキリスト教でも宇宙をそれなりに説明可能です。アインシュタインの宇宙論でも宇宙をそれなりに説明可能です。以下同様です。

いっしゅの世界認識の相対性理論のようなものがあります。地球人のビッグバン宇宙論でもこの宇宙を説明できます。宇宙人の宇宙論でもこの宇宙を説明可能でしょう。しかし彼らでもまだすべて

を理解は出来ていないはずです。

このように我々の宇宙は非常に許容性があると考えられます。

12.2 反重力→ UFO →矢追純一→オカルトとなるのはなぜか？

一言で言えば、その方が楽だからです。何もする必要がない。何も勉強する必要もない。何も研究する必要もない。

テレビを運営しているのは企業です。企業のボスは投資家です。投資家の元手はどこから得られるのでしょうか？

それは、既成の社会構造です。社会が法律で守られるから人は生活できます。しかし、その反面、企業も守られます。

建築基準法があるから、それで決まった建築しか作れないのです。それ以外は違法行為になり、犯罪です。いまは奈良や京都の五重塔は作れません。違法行為になります。

テレビには放送法、ラジオには電波法があります。これは粗悪な放送局を除外するには役立ちます。しかし、既成の放送局を守ります。ですから、新規参入の放送局はほとんどありません。これが逆に大手放送局や NHK が劣化させます。

新聞もまったく同様です。新聞社は新聞法によって守られています。だから劣化します。

自動車も無数の法律があります。その結果、一部の自動車メーカー以外自動車を作ることが出来ません。勝手に走り回ることが出来ません。飲酒運転を取り締まる法律があるから、飲酒運転は犯罪になります。

しかし、誰も人のいない場所で飲酒運転しても何ら問題はありません。酒が水のような酔わない人は酒もビールも水も大差ありません。運転も日常的なものならまったく問題ありません。昔の欧州人は水道が未発達ですから、ワインやシャンパンが水代わりでした。酒の分解酵素のない人は飲酒運転がご法度でしょう。危険すぎます。

実際 1980 年代までは警官ですら飲酒後に自分で運転していました。それは全世界共通です。一杯飲んで気分良く運転して変えることが昔は可能でした。しかし、いまは法律ができてそういうことが凶悪犯になります。高速道路で飲酒運転すれば、人殺しの可能性が増します。当たり前のことで、場所により臨機応変に変えるべきものです。

逆にインターネットの出来た時、今もですが、まったく法律がありませんでした。だから、最初もいまも詐欺行為がはびこっています。しかし逆にインターネットの進歩は実に早かったのです。我が国にインターネットの最初アクセスポイントが出来たのは 1996 年です。それから 25 年で、スマホまであっという間に進歩しました。

しかし、インターネットの規制が入ると、途端に進歩が止まります。最近 YouTube やグーグルに規制が入り始めました。すると、YouTube の劣化が激しいです。進歩は止まります。逆にそれにより、大手ネット企業が保護されます。

大事なのは法律ではなく常識です。しかし、一度法制度ができれば、二度ともとへ戻すことが難しくなります。科学法則にもこれとまったく似たようなことが起こるのです。

12.3 反重力がオカルトではなく科学的に「実在する」するものだと示して欲しい

これは十分にできたのではないのでしょうか。反重力はオカルトではありません。これは我々の目標です。次のテーマです。

その昔、ライト兄弟の時代の科学者は、人が空を飛ぶことは不可能だという証明を行っていました。しかし、それは人が鳥のように飛ぶことが不可能だという意味に過ぎなかったのです。ライト兄弟が飛行機を作成して浮き上がると、科学者は新しいテーマを見出しました。揚力の原理です。

反重力はこれに似ています。低周波低電圧の世界では電磁推進力が得られません。だから、既存の電磁気学やエレクトロニクスの範囲では、反重力は不可能だと見えます。しかしながら、超高周波高電圧のニコラ・テスラの世界に入れば、状況が一変します。電磁波の縦波成分が無視できなくなります。

電磁気力は未知の部分が残っています。しかしながら、従来の科学および物理学では、すべて解明済みだという立場を崩したくありません。それはそうした方が都合の良い一部の人達がいるからです。

新技術は旧技術の最大の脅威です。驚異は早めに刈り取る必要があります。こうして、いくら本物の学問であったとしても、既存のテクノロジーの最大享受者たちはそれをオカルトにしておきたいのです。一般人は決まった範囲内で生きているだけですから、新旧技術のいずれであろうが、まったく生活に大差はありません。

12.4 フリーエネルギーはオカルトではなく 実存することの証明をして欲しい

フリーエネルギーはオカルトではなく、オ・カルトです。オカルトは「ニセ科学」の意味ですが、オ・カルトは「隠された知識」、あるいは、「まだ秘密の知識」という意味です。そもそも、オカルトは最初はオ・カルトの意味でした。それが、いつしか全く違う意味に転化されました。これは「とんでも」という言葉ができたことを思い出させます。

「とんでもない」という言葉は「途方もない」という意味です。「途方」とは「やりよう」という意味で、「方策」や「手段」や「理屈の筋道」のことです。つまり、「方法」のことです。「方法がない」、これが「途方もない」です。だから、「とんでもない」ことというのは「方法がない」ことという意味です。それを「方法がない」ことを「とんでも」と省略してしまったのです。最後の「ない」という否定形で意味を成す言葉を肯定形で使えば、自己矛盾した言葉になります。まさに「隠された真実」という意味の「オ・カルト」という言葉を、まったく逆に「嘘八百の事実」という意味で「オカルト」と言ったことと同じなわけです。

いずれにせよ、「オカルト」も「とんでも」も元はと言えばアメリカの懐疑主義団体が作り出したものです。我が国の場合はいずれも、「と学会」のメンバーがアメリカの懐疑主義団体のマネをし作り出しました。彼らはニセ科学の否定には血眼になります。しかし自分たちが偽日本語を作り出すことには躊躇がありません。大方が

唯物論主義者や共産主義者や少女趣味のオタクっぽいカルト的な人たちがメンバーです。こういう人たちは、高校の先生だったり大学の先生だったり公務員の人が圧倒的に多いのです。なぜならニセ科学バッシングをして民間人の仕事の邪魔をしても職を追われることはないからです。彼らの大半が血筋としては半島からの帰化人です。日本人のメンタリティーが希薄な人たちなのです。だからそういう認識のしかたになるのです。

共産主義は欧州ユダヤ人のカール・マルクス^{*4}とフリードリヒ・エンゲルス^{*5}が作り上げました。彼らは物質主義者で還元論者です。つまり、物質・エネルギー・情報の意味で言えば、物質だけにこだわる 1 次元論者です。エネルギーを労働という意味で言えば、2 次元論者です。なぜなら、マルクスはこの世界を物質と労働という 2 つでしか見ないからです。

欧米のユダヤ・キリスト教白人種の文化では、労働は神罰です。労働は神から自分に与えられた償いにすぎません。だから欧米のエリートは肉体労働を低級の仕事だとみなし、とても嫌がります。代わりに支配した奴隷にさせようとします。だから、欧米文化では労働は奴隷の仕事という扱いになります。そして、肉体労働を行う人々を見ると、彼らは労働者階級と定義します。カール・マルクスはこの文化圏で育ちました。だから、マルクスの共産主義は多くの誤解の上に成り立っているわけです。

ところが、我が国の伝統はそうではありません。天皇陛下は労働

^{*4} Karl Marx, 1818 年 5 月 5 日 - 1883 年 3 月 14 日;
<https://ja.wikipedia.org/wiki/カール・マルクス>.

^{*5} Friedrich Engels, 1820 年 11 月 28 日 - 1895 年 8 月 5 日;
<https://ja.wikipedia.org/wiki/フリードリヒ・エンゲルス>.

します。自ら田植えを行います。自ら野菜を栽培します。これは、我が国では労働にはエネルギー消費では測れない価値があることを知っているからです。価値は情報です。つまり、我が国の文化圏では、この世界は物質とエネルギーだけではないことを知っているのです。毎日土いじりしたら、毎日労働を繰り返すことで、自分自身が幸せを感じたり、なにか新しい認識を得ることがあります。日本人はそういうことを知っています。

その結果、我が国は世界一森林が残ります。桜は量も質も種類も世界一です。果樹や野菜の種類は世界一多いです。都市は世界一きれいです。しかしながら、それは昔の日本人が行ったものです。それを管理維持した結果、いまの日本があるわけです。

最近、それに気づいた欧米の農業資本家が、日本の農家に取り入り、ゆずやさまぎまの果樹や野菜を盗みました。中国や韓国もそれに習いました。しかし、彼らには街や果樹園や桜を愛し、管理、労働する人たちを見れば、「奴らは奴隷労働をしてる下層の労働者階級なのだ」という認識です。こういう共産主義思想や物質主義的思想の持ち主には、それ以外はすべてオカルトやまがいものに見えるというわけです。

事実、欧米の小麦の元種「農林10号」を作り出したの日本人です。アメリカの米の元はすべて日本のものです。ブラジルの農業を発展させたのは日系ブラジル人です。北米の農業もそうです。台湾の農業の基礎は日本人の八田與一です。韓国や中国そして東南アジアの農業もそうです。アフリカもそうです。それは日本人だけが労働を単なるエネルギー消費だと思えないからなのです。この成果のために、世界の人々がどれだけ助かったのでしょうか？

しかし、欧米白人種は決して自分が土いじりをすることはしませ

ん。ユダヤの企業家は実際の労働は現地人の仕事にします。それを仕事を作ってやったと解釈します。彼らが欲しいのはその成果である物質だけです。

12.5 アインシュタインの呪縛から抜け出せないのはなぜか？

アインシュタインの場合はすでに科学というよりは、教義になっています。多くの科学者はこの事実を信じたくはないでしょう。しかしこれは事実です。

私が知る限り、我が国の偉大な数学者の岡潔博士が、世界最初にこれを指摘しました。岡潔博士は、アインシュタインは物理学を形而上学に変えたと嘆きました。

本来、物理学は理論的概念は実験結果からその妥当性が証明されるべきものです。しかし、アインシュタインは思考実験という名目で、実際には出来もしない実験、すなわちヴァーチャルな実験結果に基づきました。例えば、落下するエレベーターの中で光子の軌道が曲がると考えました。ここから彼の天才的思考力で一般相対性理論を生み出しました。しかし、そうする前に、19世紀の物理学者なら、実際に落下エレベーターの光子実験を行うでしょう。実際、マイケル・ファラデーはコイルを落下させ、コイル内に発電が起きるかどうか実験しました。結果は検知できるほどの電流はでませんでした。しかしながら、ファラデーのこういう態度が我々の物理学の伝統であったのです。それをアインシュタインが変えたのです。この結果、実際には何も試したことがない概念を用いて、その概念

の上に概念を作るという行為を伝統にしたのです。仮定の上に仮定を作る。そういう素粒子物理学や高エネルギー物理学の伝統を生み出しました。

一方、凝縮体物理学、物性物理学の分野だけが、現実装置を作り、概念を実験で検証します。だから、物性物理学は健全です。逆に素粒子物理学は健全な物性物理学にすり寄ってくるのです。そうならざるを得ません。

例えば、南部陽一郎博士^{*6}を例に出しましょうか。南部陽一郎博士は素粒子論で幾多の概念を生み出し、2008年にノーベル物理学賞に輝きました。しかし、東京大学出身の南部陽一郎博士の一番初期の論文は統計力学のオンサーガー模型の問題です。そして、彼の研究のほとんどすべては物性物理の超伝導理論の焼き直しに過ぎません。南部-ゴールドストーンモデルは、固体物性理論の磁性体の相転移現象の対称性の破れがモデルです。ヒッグズ粒子は、物性物理学の金属内の電子と電磁場の相互作用によるプラズマモードがその原点です。素粒子の質量獲得は物性理論の超伝導のBCS理論です。すべて物性理論における分かりやすい雛形が先にあるのです。物性物理学の理論がなければ、素粒子論者は何も出来なかったでしょう。これは物性物理学が実験ができるからなのです。

ところで、一般の人はあまり気にしませんが、東京大学はものづくりの伝統のある実学の大学です。逆に、後から出来た京都大学は現実離れした抽象理論の伝統のある虚学の大学です。ですから、京都大学は理論に強く、東京大学は実験に強いのです。しかしなが

^{*6} なんぶ よういちろう, 1921 年 1 月 18 日 - 2015 年 7 月 5 日 ;
<https://ja.wikipedia.org/wiki/南部陽一郎>.

ら、我が国のノーベル賞が最初に京都大学の湯川秀樹博士と朝永振一郎博士に与えられました。そのため、我が国では物理学に対するかなりの誤解が生まれました。

アインシュタインがアインシュタインであり得るのは実際に実験的検証される分野での大きな革命的業績のおかげなのです。光量子理論やブラウン運動理論やボース-アインシュタイン凝縮などの業績があるからなのです。けっして一般相対性理論ではありません。そのあたりの誤解があるようです。